

行っています。ここ4年程は、「地域の子供達に自分たちの仕事を知ってもらい、楽しく学べる職業体験をしよう」といった会員の声から、「わくわくしごと☆チャレンジ」と称した小学生向けの職業体験を実施しています。

#### (4) 福利厚生事業

会員の相互親睦を図るために、ビアパーティーやボウリング大会を開催しています。

### 3 事業に取り組んでの今後の課題

役員を中心とした執行部の自由な発想で、事業の脱マンネリ化が図れていますが、事業への参加者は固定化しているのが現状です。活動の充実には更なる参加者の増加が不可欠であり、事業に参加しない会員や本会未加入の組合青年部へ、青年中央会がどのような活動をしているか、対外的にPRしていく必要があります。

### 4 将来に向けた今後の対応

新規会員の加入促進を図るためのツールとして、青年中央会の概要をまとめたパンフレットを作成する予定です。また、対外的な情報発信を行うためにFacebookを令和2年1月に開設しました。Facebookでは、青年中央会の事業PRや親会からの情報提供と、会員が実施するイベント等のPRを行っていきます。

組合という強固な連携体を母体とし、また、県一円がエリアで、更にブロック・全国へと繋がれるメリットを活かした若手経営者の交流の場として、更に存在感を増していきたいと思っております。



遠藤 直人 部長

## 山形県旅館ホテル生活衛生同業組合青年部 発表者:遠藤 直人 部長

#### 組織概要

所 在 山形県山形市松波3丁目2-12

代表者 部長 遠藤 直人 (有限会社 登府屋旅館)

部員数 47名

### 《 発表内容 》

#### 1 組合を取り巻く現状と課題

昭和50年代には、170名以上の青年部員がいましたが、現在は47名です。数字の通り旅館業界では宿の軒数が減り、規模も格差が生まれるなか、近年は、温泉地や宿が特色を出して旅館経営だけでなくまちづくりも行っています。

課題としては、人口減少に伴う新たな顧客層の開拓、人手不足の解消、宿や温泉地の魅力の開発、温泉地全体の持続可能な発展等が挙げられます。また、減少する部員数の拡大も課題です。